



TOMOHIKO INAGAKI Race Report #24 FTRS中谷塾FCJ

Formula Challenge Japan Round.5&6

2006.08.25(Fri)~ 27(Sun) FUJI SPEEDWAY

OVERVIEW



富士スピードウェイで行われた、フォーミュラチャレンジ・ジャパン第5戦、第6戦をご報告させていただきます。前回のレースに続けて富士スピードウェイでの開催となるため、弱点をすぐに修正できる機会です。FCJで少しでも速く走るために何かヒントを得られないかと思い、メンタルトレーニングや体カトレーニングと平行したトレーニングの一環として、カートレースに出場しました。そこで不慮のクラッシュで負傷し、レースウィークのメディカルチェックにてドクターストップとなりレースに出場できなくなってしまいました。御支援・御声援下さっている皆様には、申し訳ない気持ちでいっぱいです。当日、ご声援に来て下さった方々に改めて御礼申し上げます。レースに出場できないことで失った様々なものはとても大きく、悔やみ、怒り、不安、諦めの気持ちが過りました。しかし、気持ちの切り替えが大事、仕方のないことなのでこれからどれだけ巻き返せるかを見届けて頂きたいと思います。確実に先に繋げるため、レースを違った視点で考察できプラスになりました。とにかくポジティブに乗り越えていきたいと思います。10月3日から行われる合同テスト、10月20日から行われる第7戦・第8戦に向けて精一杯頑張りますので、宜しくお願いいたします！

Practice 1 Pos:21 Best time:1'46.289(+1.701)



親指の腫れがひどく、痛みもありました。FCJのステアリングは特殊な構造をしているため、親指に負担が大きくかかります。高速コーナーでのステアリング保持が納得がいかず、最終セクターでも咄嗟のステアリングワークで反応が遅れるため、ペースを大幅に抑えてセッションを走りきる目的に変更しました。後続車が来たらすぐに譲り、ずっと同じタイムで走り続けました。路面の改修やオイル処理剤がまかれた後の路面は非常に滑りやす



く、ラインをよく選んで滑らないように楽に走っている時は上位にいたので、力まずリラックスして運転することが大事なのだと再認識しました。このセッションを通じレースに出場することは危険だと思い、翌日の予選直前に慌しくなってしまうことを避けるためメディカルセンターの方々に無理を通して頂き、メディカルチェックを受診しました。また、親指骨折も発覚し、ドクターストップによりレース出場はできなくなってしまいました。せっかくこのような良い体制を頂いているにも関わらずレースに出場できなくなってしまい、リスクを冒して練習する機会を選んだ自分を悔やみました。レースウィークを中

心として物事を考えるという認識が甘く、反省しています。メカニックさんが初めて担当したドライバーが同じような境遇でレースに出場しお亡くなりになったことなど、色々なお話をお聞きしました。メカニックさんと一緒にコース脇に見学に行き、レースへの取り組みをどのようにしていたかなどを聞かせて頂いて、自分を戒めました。次回、頑張ります！本当に申し訳御座いませんでした。

Qualify 1



予選前にドライバーがどのような行動（集中）を行っているか、パドックをまわって観察しました。リラックスの仕方を見ても、必然的に上位を走るドライバーは行動や表情に余裕があるように感じました。時間をしっかりと決めて、他のドライバーのリラックス方法も試して気持ちを盛り上げていくことを実践してみたいと思います。予選1回目はAコーナーで観戦しました。ここでは、中山選手がただ一人違った走り方をしているのが印象的で、速さもずば抜けていました。自分のドライビングは、進入や出口の縁石を出来るだけ使ってRを大きくとろうというものでしたが、縁石をまたいだ瞬間にマシンがダンピングし、ラインが横にずれているのが確認できました。高速コーナーは得意なので劣っているものではないですが、自分のドライビングはマシンダメージのリスクが高く、乗っているとわからないくらいの微妙なスライドが確認できたのでスタイルを変えてみようと思います。中山選手以外のドライバーも自分と同じラインを選択していたので、マシンのダンピングや下面に流れる空気をしっかり感じとれるように、茂木では改善したいと思います。予選2回目は1コーナーで観察しました。シフトダウンでリズム感のあるドライバーと、ステアリングワークがスムーズなドライバーは、やはり上位のドライバー達でした。関口選手のみボトムスピードへの到達時の速度が圧倒的に速く、ターンインの開始も速いのが印象的でした。高い速度でターンインを開始する分、低速でのヨーの立ち上がりはスムーズにしているように思いました。茂木もそういったコーナーが多いと思うので、自分も意識してドライビングしたいと思います。

Final-race1



レースは中段でのバトルが多く、自分の周囲にいる選手のテクニックや癖が、良く確認できました。特に前回、自分を2レースとも押し出したドライバーが危険行為をしていたので、次回のレースでは予選で絶対に前にいけるように努力します。関口選手のバトルテクニックも印象に残りました。開幕戦から「ひとつでも上へ」と思っていました。少し力を抜いて「絶対完走」を目標にすれば、おのずと上位フィニッシュできると思っています。判断力の向上をテーマに次のレースまでに調整したいと思います。今回は出場できず残念でしたが、今後ともしっかりと闘ってまいりますので宜しくお願いいたします。

フォーミュラチャレンジジャパン
#24 FTRS 中谷塾 FCJ 稲垣 智彦